

平成25年度 「基礎・基本定着状況調査」の結果から

1 教科の通過率から

			広島県	広島市	八木小学校
国語	平均通過率(%)		70.1	66.0	67.4
	通過率ごとの割合(%)	30%未満	2.8	3.7	4.2
		60%以上	83.2	78.4	84.5
		80%以上	53.4	43.7	49.3
算数	平均通過率(%)		69.8	66.7	66.1
	通過率ごとの割合(%)	30%未満	3.5	4.6	4.2
		60%以上	72.2	65.8	64.8
		80%以上	32.8	26.1	29.6
理科	平均通過率(%)		61.3	57.9	56.2
	通過率ごとの割合(%)	30%未満	8.0	10.8	11.3
		60%以上	58.4	51.3	53.5
		80%以上	21.8	16.7	12.7

(概要)

本校では国語科・算数科・理科の平均通過率は県の通過率を下回っている。
 広島県が示している「基礎・基本がおおむね定着している」としている通過率が60%であることから国語科・算数科においては「おおむね定着している」といえる。また、広島県が目指している「通過率ごとの割合が60%以上の児童を80%以上にする」目標では国語科においては達成できている。

(教科ごとの概要及び改善)

国語科において「言語」「書くこと」の領域では県・市の平均通過率を上回っているが「聞くこと」の領域では県・市の平均を下回っており、改善が必要である。改善の方策については、聞く態度や姿勢等、聞き方のスキルを身につけさせるとともに、正確に聞き取ることができるよう、学校朝会での教師の話をメモしたりゲームやディベート等により、聞く活動を教科を越えて身につけさせる必要がある。また、ローマ字の読み・書きにおいてはローマ字での掲示物やコンピュータのローマ字入力など身近な生活に結びつけて定着を図る必要がある。

算数科においては「数と計算」の領域では県・市の平均通過率を上回っており、計算の技能は定着している。一方、「図形」や「量と測定」などが十分に定着していない。

改善の方策については「図形」の領域では、図形の定義を明らかにし、図形をかいたり、折ったり、重ねたりして、図形を構成する辺や頂点、角等の関係を理解させる必要がある。また、条件過多や条件不足の問題を設定して、解決のために必要な情報を考えさせる場面づくりをしていく必要がある。

理科においては昆虫の体のつくりや飼育方法などの「生命」の領域については県・市の平均通過率を上回っているが、他の領域では市・県の平均通過率を下回っている。

改善の方策については、実験や観察では全員が体験をし、わかったことを一人一人が考察としてまとめる活動を取り入れるなど言語活動の充実を図る必要がある。

2 生活と学習に関する意識調査から

	質問項目(抜粋)	あてはまる割合		比較
		広島県	八木小	
1	学校へ行くのは楽しいです	87.7	85.9	▼
2	外に出て遊んだり、運動をしたりして体を動かしています	85.7	74.6	▼
3	学校の授業の予習をするようにしています	53.3	39.4	▼
4	学校の授業の復習をするようにしています	61.9	50.7	▼
5	自分で勉強の計画を立てています	62.0	56.3	▼
6	自分の考えと他の人の考えを比較しながら聞いています	76.0	80.3	○
7	新聞やテレビのニュースを見ています	75.7	71.8	▼
8	地域や子ども会の行事に参加しています	67.3	52.1	▼
9	本を読むのが好きです	78.7	84.5	○
10	自分のよさは周りの人から認められていると思う	60.4	62.1	○
11	普段、家では、1日30分以上の勉強をしている	86.9	73.2	▼
12	休日、家では、1日30分以上の勉強をしている	68.2	49.3	▼
13	国語の勉強は好きですか	67.0	56.3	▼
14	国語の授業はよくわかりますか	80.7	76.0	▼
15	国語の授業の中で、学んだことの振り返りをしています	60.9	59.1	▼
16	算数の勉強は好きですか	70.9	57.7	▼
17	算数の授業はよくわかりますか	81.1	69.1	▼
18	算数の授業の中で、学んだことの振り返りをしています	70.5	55.0	▼
19	理科の勉強は好きですか	81.0	70.4	▼
20	理科の授業はよくわかりますか	85.0	76.1	▼
21	理科の授業の中で、学んだことの振り返りをしています	65.5	56.3	▼

1～12については「生活に関する調査」で主に県と比較し差が5%以上のものを掲載した。また、13～21の項目は「学習に関する調査」の抜粋である。

(生活に関する調査の分析)

学校へ行くことが楽しいとしている児童の割合は広島県と比較すると若干低く、14%の児童は学校が楽しくないと感じている実態がある。学習や学校での生活、友達関係など原因について分析する必要がある。

自分のよさは周りから認められ自己肯定感を感じている児童が多い。

家庭学習については時間や内容について県と比較すると低く、家庭学習の習慣化が十分定着していない。今後「家庭学習の手引き」をもとに家庭と連携を図っていく必要がある。

(学習に関する調査の分析)

国語科・算数科・理科とも「勉強は好きですか」「授業はよくわかりますか」「授業で学んだことの振り返りをしていますか」の3項目について、いずれも広島県の割合より低くなっている。児童が学習に関心を持ち「わかる授業」になるようICT機器を効果的に活用したり、指導方法を工夫したりするなど指導改善が急務である。

また、講師を招へいした校内研修会等により教師の授業力の向上を図る。